

## 山の水族館移転改築基本構想（案）

### —山（森林）にいだかれた生命の再発見—

H22. 9

#### 1. 事業の背景

##### 1) オホーツク圏唯一の水族館

- ・昭和53年4月、観光集客施設として開館。網走のオホーツク水族館が平成14年に閉館し、オホーツク圏では唯一水族館。天然イトウの聖地として評価も高い。

##### 2) 入館者の動向及び現状と課題

###### <入場者の動向>

- ・開館当初は5万人台から4万・3万人と徐々に減少。平成10年からは2万人台。
- ・道の駅おんねゆ温泉の利用者が減少傾向にある中、平成18年・21年には10%増加と健闘している施設。

###### <現状と課題>

- ・建築後32年。老朽化、トイレの未水洗。
- ・従来型の水槽による平面展示と、展示方法の工夫には限界があり、新鮮味やインパクトに欠けている。
- ・平成8年以降、道の駅の施設、果夢林（ハト時計）・果夢林の館の建設により裏側で影となり、存在を確認しづらい位置となっている。

##### 3) 移転改築事業の根拠

- ・道の駅おんねゆ温泉（年間約44万人）の利用者を、果夢林の館等に十分に取込みしていない状況から、施設間の連動性を持たせて、山の水族館の存在がわかる前面への移転改築がとめられている。
- ・無加川河川改修（河川幅の拡幅）事業が予定されており、方線・線形によっては、進入道路・駐車スペース等に被り、館の機能が発揮できない可能性がある。
- ・温根湯温泉地区の都市再生整備計画の事業の一環としてまちづくり交付金の財源確保できる絶好の機会である。

##### 4) 北見市総合計画での位置付け

- ……オホーツクの玄関口として温根湯温泉街再生を実現し、阿寒・知床観光ルートの起点となる滞在体験型観光への転換を図ります。

- ◇ 主要な事業 温根湯温泉街再生整備事業

